

第2回 第5次横浜市男女共同参画行動計画起草委員会（横浜市男女共同参画審議会部会）会議録	
日 時	令和2年2月14日（金）10時00分～12時00分
開 催 場 所	市庁舎2階 政策局会議室
出 席 者	江原委員、小山内委員、堀本委員、吉永委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴者なし）
議 事	<p>1 「現状と課題」及び「重点取組」について（案）</p> <p>(1) 横浜市の状況</p> <p>(2) 次期計画における課題と重点取組</p> <p>(3) SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた計画の推進</p> <p>2 各施策の目標・方向性について（案）</p>
議 事	<p>1 「現状と課題」及び「重点取組」について（案）</p> <p>2 各施策の目標・方向性について（案） （事務局から説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「横浜市の現状」において、市の学童保育や待機児童の状況を追加してほしい。 ・「次期計画における課題と重点取組」において、横浜市の特徴や課題を書いてほしい。 ・政策Ⅰ・Ⅲが男女格差の解消でⅡが社会的弱者としての女性の困難からの解放であり、政策Ⅰ・Ⅲは表裏一体である。政策の順番を替えてみてはどうか。 ・政策の順番は案のままで良いと思う。市役所の取組が含まれる政策Ⅰを最初に持つてくることで市の意気込みを見せることができる。政策Ⅱはマイノリティの人への対応であり、順番を最後に持つていくのは望ましくない。命にかかわる喫緊の課題であるDVを含む政策Ⅱを最初に持つていくという考えもあるが、DVについては政策Ⅱの最初の施策としていることで覚悟を示している。 ・施策名に「等」はなるべくつけない方がよい。個人個人解釈が異なる。「等」として想定しているものは具体的に書くべき。 <p>【各施策に関連する意見】</p> <p><施策1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性のリーダーシップ開発について、企業への働きかけでは不十分ではないか。リーダーシップには二つの意味があり、他社に対して影響力を及ぼすということと、変革するということ。これは企業に入ってからではなく、子どもの頃から培われるものであるので、学校や大学での教育が影響する。キャリア教育は施策1にも関係しているという表現にしてほしい。 <p><施策2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰もが活躍できる」ではなく「誰もが働きやすい」の方がよい。「活躍」の要素は施策1・3に入っているので、施策2では「働きやすい」とした方が明確になるのではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・待機児童や放課後児童対策への関心は高いので、施策名にも反映した方がよい。 <p><施策3></p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性職員の育休取得について、国は1か月の取得目標や、管理職の人事評価への反映など対応を行っている。横浜市には国のレベルを超えるような取組を見せて欲しい。 ・女性職員の管理職割合を上げるには、年功序列の廃止や責任職採用など思い切った取組が有効である。 <p><施策5></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な取組に「外国人への支援」とあるが、日本国籍でも外国につながる人は、文化的な大変さ、外国籍の母親が離婚などで大変苦勞していると聞いており、支援対象に含む表現にできないか。 ・外国籍の女性が抱える最大の問題はDVである。 <p><施策6></p> <ul style="list-style-type: none"> ・更年期以降の高齢期の健康支援について触れてほしい。 <p><施策7></p> <ul style="list-style-type: none"> ・性的少数者への理解だけでなく、性に対する知識が偏っており十分な理解がなされていない。性教育は多様な性のあり方への理解のベースである。 <p><施策9></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策名は「地域・社会」となっているが、社会に関する記述がほとんどない。女性の活躍は地域だけでなく、社会的なものもあるはず。 <p><施策10></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報啓発について、世代によって有効なメディアが異なっており、これまでの広報のやり方では通用しなくなっている。若年層にはダイレクトに届くようにSNSを利用した広告を打つなど、攻め込んだ広報戦略の検討が必要。
特記事項	なし